



あいじ福祉会理事長
岩井 恵澄 さん



小児科医
二本垣 まち子 さん

特集

新春 対談

先駆者たちの 思いとまなざし

久しぶりの再会

黒部の子どもたちとその家族を
支えておられる、あいじ福祉会
理事長岩井恵澄さんと、黒部の
小児科医として45年間ご活躍さ
れた二本垣まち子さん。大先輩
お二人の対談から、原点となる
思いをお聞きし黒部の福祉につ
いて考えます。

岩井さんと二本垣さんが最後に
会ったのは、去年の黒部愛児保育
園の修了式でした。医院を閉める
2日前、忙しい時間を工面しての
訪問。子どもたちと保護者全員で
「二本垣先生、ありがとうございます
でした！」と大きな声で挨拶したの
が最後でした。

岩井さんは、この日を振り返り
「先生には黒部愛児保育園の園医に
なっていたから、30年余り本
当にお世話になりっぱなしで、いく
らお礼を言っても足りないくらい助
けていただきました」と話されます。
二本垣さんは平成28年3月まで
約45年間、黒部市の小児科開業医
として、たくさん子どもたちの
健康と母親の育児を支えてこられ
ました。閉院後の現在は京都府宇
治市へ引越され静かに過ごして
おられます。

二本垣まち子氏(以下、敬称略) 今
回、市社会福祉協議会の広報誌で私

と岩井さんのお話を載せたいと
連絡がありまして、久しぶりにお
会えるのを楽しみにしてい
ました。

岩井恵澄氏(以下、敬称略) 私
も同じです。あの日はちゃんとお礼
もお話もできず、今日、お会いで
きることがうれしくて宇治ま
で来ました。良い機会をい
ただいて、ありがとうございます

二本垣 いつも読ん
でいます。市報と一
緒に私のところに
届いていますから。

岩井 その広報誌
に私たちがどんな
お話をしたらいい
のか。社協からは
「福祉とは」という
大きなテーマもい
ただいていますが、
上手にお話でき
るかどうか……。

広がる福祉

岩井「福祉」って
いうと、高齢者や
障がい者などに對
して公的扶助や
サービスをするこ
となど、限定的に

考えがちですが、近頃は児童福祉
とか地域福祉、医療福祉など広い
意味の福祉が問われていると思
います。

昔は「こつりやく」するとか、
「入会」するという言葉があり
ましたね。近所さんや知人が田
植えや稲刈り、お祭りとか法事な
ど行事のときに、子ども連れで参
加し、子ども同士群れて遊び、大人
も相互に交流し合う貴重な場が
あったことを思い出します。この
ような日常が今言われる地域福祉
の姿の一部かと思えます。でも今
は生活のあり方が変わってしまい、
近所づきあいは「回覧板」という
文字言語でつながり、「当番」と
いう義務で流れているように感
じます。抵抗できない大きな流れ
の中で、子どもたちの幸せ(福祉)
を考え、親の就労支援を考えると
き、環境が整っている保育の場と
病児を預かる医療の場が絶対大
切です。児童福祉と医療福祉の充
実が子育て世代に幸せな日々を
つむいでくれることになると思
います。

子と親を支える

二本垣 岩井さんは40年も前から
0歳児からの保育をやっておられ、
その頃、乳児保育を実施している
施設はなかったんですね。とても
感銘を受けたのを覚えています。



懐かしい話に話題が付きませんでした

